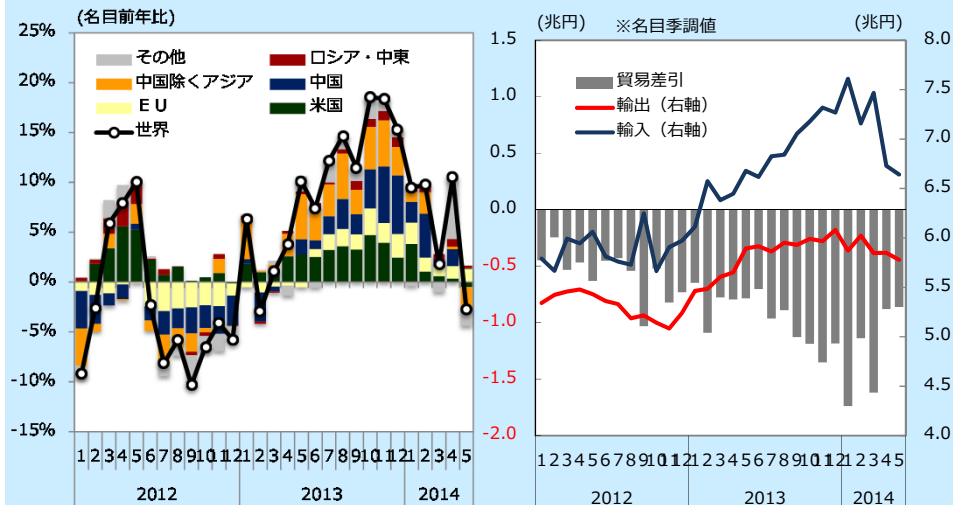


日本：貿易統計（2014年5月）

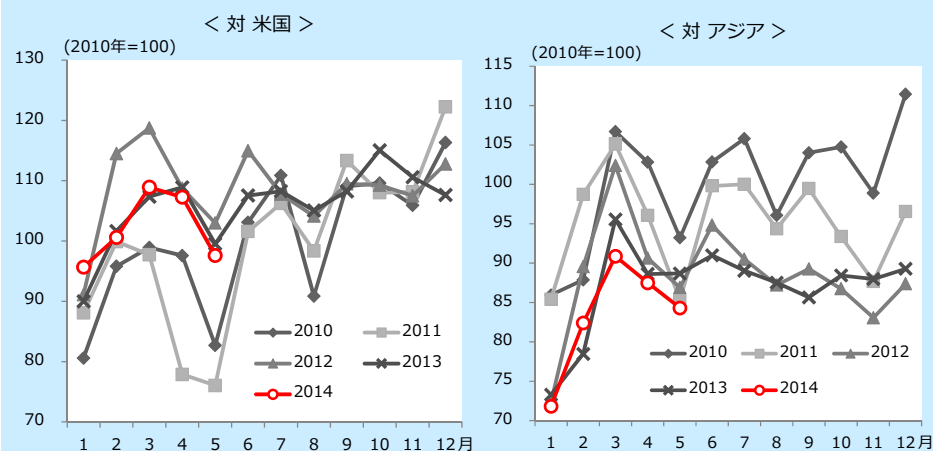
MRI Daily Economic Points
June 18, 2014

地域別輸出

輸出入と収支



地域別輸出数量指数



資料：財務省「貿易統計」

評価ポイント

2014年5月の結果

- 5月の貿易収支(季調値)は、▲8,622億円となり、前月の▲8,805億円と同程度となった。5月は輸出入(季調値)でともに前月から減少(前年比では、輸出は▲2.7%と15ヶ月振りの減少。輸入は同▲3.6%と19ヶ月振りの減少となった。)
- 輸出の伸びがマイナスとなった要因として、輸出数量が前年を下回って推移する中、円安効果の一巡により輸出価格の伸びが鈍化している影響が大きい。
- 輸出数量を地域別にみると、対世界向けで前年比▲3.4%の減少となった。EU向けが同+7.5%と回復基調を維持している一方、米国向けが同▲1.9%と減少したほか、アジア向けが同▲5.0%と引き続き弱い。
- 輸入は、輸入価格が前年比+0.5%と前月(同+4.7%)から鈍化。輸入数量も同▲4.0%と減少。3月までの駆け込み需要の反動がまだ続いている模様であり、鉱物性燃料がマイナス寄与となった。
- 日銀の実質輸出入によると、5月の輸出は前月比▲2.2%と2ヶ月振りの減少、輸入は前月の大幅マイナス(同▲9.9%)に続いて同▲2.6%と2ヶ月連続の減少となった。

基調判断と今後の流れ

- 新興国経済の減速などから、輸出は低調な推移が続いている。輸入の増加ペースは鈍化しているものの、引き続き大幅な貿易赤字が続いている。
- 輸出の先行きは、先進国向けは緩やかな回復を維持するとみられるが、新興国経済向けは、当面低調な推移を予想する。既往の金融引き締めや中国経済減速の影響に加え、タイの政治混乱も新興国経済の景気回復の重石となろう。
- 貿易収支は、輸入の伸び鈍化から赤字幅の縮小を見込むが、輸出は上記の景気要因に加え、海外生産比率の上昇など構造要因もあり回復テンポは鈍いことが予想されるため、当面は現状程度の貿易赤字の継続を見込む。